

会員2万名の国賠同盟建設を！ 自公政権を倒し、連合政権樹立を！

二、「第40回全国大会」まで、2万人の国賠同盟建設を」という中央常任理事会の行動提起に
応えて、宮城県で
50人以上の会員
大をやり遂げましょ

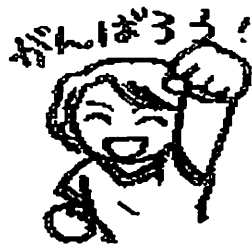
一、戦前からの「不屈の闘い」に学び、参議院選挙勝利の大きな力にするために、劇映画「伊藤千代子の生涯」に、ひとりでも多くの県民・若者の参加を実現しましょう。

「特別期間」の 3つの課題

参議院選挙（7月）、国賠同盟第40回国大会（6月）に向けての『同盟活動特別期間（3、6月）』を成功させましょ

う。また、全県5地域の「支部体制強化」さらに「新支部の建設」に、英知を結集しましょう。

三、5月11日に国会請願する、「ふたたび戦争と暗黒政治をゆるすな、治安維持法犠牲者に謝罪と賠償を」の署名活動を大きく広げるため、「憲法改悪を許さない」1千万全国署名と一緒に、全ての会員・「不屈」読者が少なくとも30筆以上を集めるため、全力をつくしましょう。



〈声明〉

ロシアのウクライナへの侵略に断固抗議し、即時撤退を要求する

2022年2月28日

治安維持法犠牲者国家賠償要求同盟中央本部

ロシア軍は2月25日ウクライナへ侵入し、本格的な侵略戦争が開始された。これはウクライナの主権を侵害し、市民の命と暮らしと安全を破壊するもので断じて許すことはできない。

さらに、プーチン大統領は「ロシアは核保有大国である」ことを強調した。これは核兵器禁止条約が禁止した「威嚇」である。プーチン大統領（KGB・旧ソ連国家保安委員会出身）の大国主義、覇権主義を糾弾する。「ロシアは国連憲章を守り、ウクライナ侵略を直ちにやめ即時撤退せよ」と要求する。

「再び戦争と暗黒政治を許すな！」「憲法9条守れ」を掲げて50年余、「治安維持法国賠同盟」は、ロシアのウクライナ侵略を受けて、日本維新の会元代表の橋下徹氏や、安倍晋三元首相らが、「敵基地攻撃能力」を変えて「打撃力」を持つべきだとして、核兵器使用までを公言していることに断固抗議し、直ちに撤回することを要求する。

以上



No.573 号付録

宮城版No.395

2022年3月

治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟
宮城県本部

980-0022

仙台市青葉区五橋

1-5-13

県労連会館3F

国民救援会気付

TEL 022-222-6458



市川正一 柳瀬正夢画

この三月十五日は、戦前の日本共産党の幹部で、日本の革命的運動の指導者、市川正一が、宮城刑務所で獄死して五十周年になります。市川正一の遺体は、戦後行方がわからないまま三年を経て、ようやく東北大学医学部にあることが

—市川正一没後五十周年にあたって—
 変革の確信と不屈の志をうけつぎ
 歴史の教訓を学んでたまたかの前進を



No. 249号 付録

宮城版 No. 74
 治安維持法犠牲者
 国家賠償要求同盟
 宮城県本部

〒980 仙台市青葉区
 錦町 2-5-1
 日本国民救援会内
 電話(022)222-6458
 振替02210-8-28148

わかり、一九四八年三月一二日に仙台の党や労組の人々が参加し、遺体が引き取られました。戦後五十周年のいま、侵略戦争の美化や、侵略戦争の真実を覆い隠そうとする歴史の歪曲が、仙台や塩釜の市議会などで策動されています。自民党からそれに飲み込まれた社会党に至るまで、日本共産党以外の政党が、海外派兵、改憲の道を再び辿ろうとしています。戦争の道は外には侵略、内には国民弾圧の道でした。治安維持法同盟は、弾圧の最大の武器。治安維持法によって



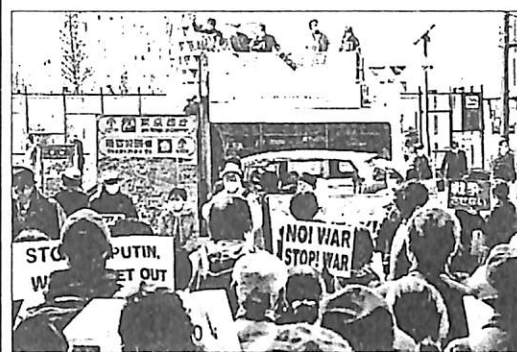
市川正一遺体引き取りの集会 東北大学医学部裏庭で
 1948年3月12日 庄司幸助氏撮影

命を奪われた、市川正一を心から追悼するとともに、市川正一をはじめ治安維持法によって過酷な弾圧を受けつつ、闘いぬいた不屈の活動に学び、当面する課題の前進のために全力をあげます。

2月号 目次
 市川正一追悼特集
 市川正一公判を傍聴して
 遺体引き取りの思い出 鈴木善蔵
 庄司幸助 沖直子
 高橋信一 和田慶子
 「赤旗」(せっき)資料



横断幕を広げ、プラカードを掲げて市民にアピールする宣伝参加者=4日、仙台市



27日新宿駅前、市民と立・共・社党の抗議行動

各地で、抗議行動

ロシアはウクライナから撤退せよ

141カ国が賛成した「国連決議」。世界各地に広がる非難と抗議行動。など、ロシアのウクライナ侵略に対する包囲が広がっています。ロシア政府は、優勢な軍

事力を背景にした侵略と、露国内では「メディア」弾圧などの人権・民主主義破壊を行っています。さらに、核兵器による威嚇と、ウクライナの前線と核施設の占拠による「核テロ」は、絶対に阻止しましょう。

この侵略戦争を機に、アメリカの核戦略を日本全土に展開させる「核共用」を可能にするために「維新」と一部の自民勢力が画策しています。7月の参院選で彼らを国会から放逐しましょう。ウクライナからの「戦争難民」は、300万人にもならないとします。募金をはじめ、救援活動に取り組みましょう。抗議行動に参加し、いっそうの広がりをつくりましょう。

漫画「伊藤千代子」著者、ワタナベ・コウ講演会

5月7日(土) 13:30~15:30 宮城野区中央市民センター

5月8日(日) 13:30~15:30 旧県民会館 602室

宮城県試写会

5月12日(木) 13:00~、18:00~

仙台メディアテーク (監督か俳優のあいさつ予定)

女性部、仙台支部共催
 「近現代史」読書会
 3月22日(火) 14時
 仙台サポートセンター

市川正一追悼特集

三・一五、四・一六弾圧事件の統一公判で
市川正一の代表陳述を傍聴して

鈴木 善哉

日本共産党の指導的幹部、市川正一が宮城刑務所で獄死し、不屈の生涯を終えてから今年は五十周年をむかえます。

私は一九三一年(昭和六年)七月の統一公判での市川正一の代表陳述を傍聴しました。その時の感動は今日でも鮮明に記憶しています。その時の感動は私のその後の活動の励ましとなり、指針となりました。

丸善獄首後の失業闘争中に全協のオルグから

公判の傍聴をよびかけられ
当時、私は党に入っていないませんでした。丸善の闘争で獄首された後、日本共産党の影響下にあっ

た全協失業者反対同盟に加盟し、東京の飯田橋職業紹介所の失業者のたまり場を中心に失業反対闘争に取り組んでいました。

毎日、飯田橋職業紹介所から支給されたひる飯用の食券以外の収入皆無の私の失業生活を心配して、丸善時代の指導者佐々木繁は消費組合の常任になったらと助言してくれました。そのための日消連準備会主催の「第二回消費組合闘争養成講習会」が七月にひらかれることを教えられ、私は城西消費組合の婦人活動家だった佐々木繁の実姉の佐々木敏子の紹介で講習会に参加しました。

丁度六月に統一公判が始まったので講習生の間でも共産党の

統一公判が話題となっていました。この講習会が終わり、勤務先の予定のない私は、再び飯田橋職業紹介所での失業闘争に参加しました。

(この二ヵ月後に私は仙台の消費組合オルグとして派遣されました)この時、全協オルグから、七月の統一公判傍聴の呼びかけを受け、失反同盟の仲間と一緒に参加したので、その仲間の氏名は忘却しました。しかし統一公判の印象は深く、鮮明に覚えています。

徹夜で東京地裁前にならびはじめて見聞した

私は徹夜で桜田門近くの東京地方裁判所に並んで傍聴券を入手し、厳戒の公判廷に入りしました。しばらくすると編笠を被り手錠された被告達が次々と入廷し、編笠を脱ぎ、手錠を外され着席しました。

権力機関の威圧するような物々しい雰囲気の中で裁判が始まりました。

私はそれまで明白に共産党員だと知って会った人はいません。こ

の時はじめて共産党員をまのあたりに見て、その言動を聞いたのです。

六四年後の今も目に浮かぶ

市川正一の毅然とした態度

市川正一は堂々たる態度で毅然として日本共産党員被告団を代表して陳述を始めました。この代表陳述の内容について、宮城裁判長は干渉的発言をしたり、公判を非公開にするなど威嚇的発言をしましたが、市川正一は裁判の反人民的性格を糾弾し、断固として反論し、党の機密事項、党の組織、党の諸機関問題については一言も述べたわけにはいかないとしながら、日本共産党の歴史と役割、目的を述べ、共産党員としての階級的態度を明確に示しました。

この代表陳述は何回にもわたっておこなわれました。その内容は現在、日本共産党闘争小史として公刊されています。それを読むと、六四年前の市川正一の堂々たる陳述の姿と内容が目に浮かぶように思っておこされます。その陳述の内容は「情勢の特徴」「日本共産党

を發揮した生涯について教えられました。

この市川正一の没後五十周年にあたり、その業績を讃え、広く普及することの重要性を痛感するものです。さまざまな反共デマが流されているなかで、これらに鉄槌を下し、彼を顕彰し、その業績を学習することは、ますます重要になっていくと思うものです。

(すずき・ぜんどう、治安維持法
国賠同盟副会長・元日本共産党宮
城県委員長)

市川正一の党葬に参加して

和田 慶子

軍国少女だった私が、生まれてはじめての党葬、市川正一さんの追悼式に参加しました。

戦後の杉板一枚のバラック建の正面に、遺影や赤旗が飾られてありました。宮城刑務所で、ろくな食べ物もなく、ごはん粒を一粒づつすりつぶして食べ、栄養失調の状態で獄死されたと聞きました。当時の私はなにも知りませんでした。

みやぎ市民の憲法行事参加企画

講演と討論の集い

「あのアジア・太平洋戦争とはどんな戦争だったのか」

- 侵略戦争美化論を批判する -

講師 一戸富士雄氏 (歴教協県副会長)

日時 5月20日(土)午後2時 参加費 300円

場所 仙台市・宮城県民会館602号

主催 治安維持法国賠同盟県本部・県平和遺族会



市川正一と私

庄司 幸助

昭和二十三年の早い頃、関(幸夫)君がスタジオにやってきて、市川正一同志の遺体が東北大学医学部の解剖学教室で発見された。是非写真をとってこれとてくれという。ライカを肩におっとり刀でかけつける。そこに党の人達が集まっていた。その日は曇ったうす寒い日であった。小使いさんが恐る恐る真新しい棺桶に入れた市川さんの遺体をみんなの前に運んできた。棺桶のふたがとり去られ、みんなが傍へ駆寄った。

市川同志は仙台の宮城刑務所で、終戦を目前にしながら昭和二十三年の三月十五日に獄死した。党史をはじめ党の多くの文献で、不屈の意思を持って獄中闘争を展開した市川正一同志の話が詳しくのっているが、その同志が戦前縁もゆかりもなかった私の目の前に遺体となって現れたのである。

それは遺体と言うべきでなく、遺骨と遺体の中間であった。永い間、ホルマリン浴槽につけられて

いた市川さんの骨は暗褐色に変色し、わずかなばかりの肉のささくれが残っていたにすぎなかった。

日本共産党の偉大な指導者「日本共産党闘争小史」にみられる公判廷におけるあの不屈な権力との闘争を続けた指導者はいま変わり果てた姿で私の目の前にあった。日本の天皇制支配者達の残忍な手口をその遺骸は物語っていた。私は戦前、日本共産党とはめぐり会えなかった。しかし、今日こ

で偉大な日本共産党の指導者めぐり会った。その時、彼はもはや口を閉ざして語ろうとはしなかった。誰かが、「同志は倒れぬ」を

市川正一さんの遺骨との出会い

沖 直子

それは一九四八年三月のことでした。当時、私は東北配電本店にタイピストとして働いておりました。労働組合も、配電と日本発送電にそれぞれ結成され、戦後の民

唱い始めた。みんながそれに和した。同志の遺体は赤旗に包まれ、「民衆の旗赤旗は、戦士のしかばねを包む」の歌で送られながら、北山の火葬場に運ばれた。雨が降ってきた。

私と関君はスタジオのトタン屋根の雨の音を聞きながら、写真の現像をし、市川同志の人柄を忍んだ。晴れた五月の太陽のもと赤旗が風になびくメーデーの日、私は許されて党に入った。(しょうじ・こうすけ、日本共産党中央委員会顧問・元衆議院議員)

一さんの遺骨をひきとるために、東北大学解剖学教室の裏庭での集会にでかけました。そこには日本共産党東北支部の方々と日発、配電の組合員など三十余人ほど集まっていたと思います。そこで受けた説明は、一九四五年の三月、栄養失調でついに亡くなったということでした。あと何ヵ月かで終戦という日を目前に、どんなに残念な思いだったろうと考えました。

私が見たのは、お棺に収められた遺体の無残さです。骨が露出し指などは僅かに指先二センチぐらゐが爪と一緒に残っていただけで、ほんとうにむごいと思いました。まだ若かった私は、その遺体の状況をつぶさに見る勇気がなく目をそらしてしまいました。

私が党に入ったのは一九四六年五月でしたが、組合活動のあわただしい毎日、市川正一さんの活動や役割について、当時は不十分

にしか理解していませんでした。この集会でまだ、よく知らなかった「同志はたおれぬ」を歌って、お棺を納めその上から赤旗をかけ、

医学部から北山の火葬場(現在の北山市民センターのところ)まで

青年部の人達がお棺をかついで歩きました。そこでお骨にし、その後日発のホールを借りて追悼集会が開かれました。私はその集会には参加できませんでした。

そしてその後医学部にいた知人から聞いた話ですが、医学部では共産党が遺骨のひきとりにくるようになった。大変だと粗相のないよう準備をして、鄭重に扱ったというのでした。医学部に当時画工室(顕微鏡で見たものを彩色して描く)というところがあり、ここに戦前のプロット(プロレタリア美術同盟)に所属していたことのある知人が二人おりました。いずれも故人となっていますが、加藤さんと東さんという人で、その人達から聞いた話です。

また、戦時中の食料難の時代、刑務所では雑穀の方が多く、齒も悪くしていた市川正一さんは、少しでも栄養を吸収できるように大豆を机の上で指でつぶして食べていたということを聞きました。それでも下痢がつづいて消化でき

なくなつたようです。

また、獄中での態度は非常に立派だったということを見守るのを通してもれきいています。あとでだんだん市川正一さんについて知るにつけ、ほんとに残念なことだった、こうして権力によって殺されたのだという怒りがわいてきました。

亡くなったとき刑務所は形式的に親族に電報は打ったのだそうですが、終戦前の混乱のなかで、その電報がつかなかったということ。で、もう引き取り手のない遺体として、東北大学の医学部におくつてしましました。そこで学生の教材として、きりさいなまれ、ホルマリンの池槽の中に浮いていたという事です。

私のところで見つけた遺体引き取りの写真

当時の写真が私のところに残っていました。五十年問題のあと、私が県委員会です事をするようになってしばらくしてから、残っていた写真と私のところで見つけたので、これを県委員会にとどけ、さらに再プリントして中央にもと

どけたと記憶しています。この写真は元衆議院議員の庄司幸助さんが写したものでした。その後ネガは処分してしまつたということ

す。私たち後輩が考える以上に、本人市川正一さんの無念の思いが強かったでしょう。そして戦後の党の活動、国会にも議席をしかりとって活動している現状をき

づいた同志への思いを強めています。歴史に残る裁判の記録など、市川正一集をぜひ読んでみたいとおもっております。

(おき・なおこ、日本共産党宮城県名譽県委員、元県会議員)

市川正一の遺体発見現場に立ち会って

高橋 信一

戦前のすぐれた指導者日本共産党の市川正一が、治安維持法の弾圧によって宮城刑務所で、終戦の年の一九四五年三月十五日に獄死したことは、今では史実によって多くの人が知っています。しか

し市川正一の遺体が発見されるまでは三年余の歳月があったことは余り知られていません。私は一九四六年五月一日、戦後復活最初の第十七回メーデーの日、当時東二番丁にあったバラック建

侵略戦争美化論の批判

戦後五十周年問題学習に最適

吉岡吉典著
現代に生かす

戦前史の教訓

好評発売中 残部僅少 ￥500円

同様の日本共産党宮城地方委員会を訪れ入党しました。あの時の興奮を今でも昨日のここのように覚えていています。もっともその以前に青年共産同盟に加盟していた、当時土曜に住んでいた現在治安維持法同盟同盟本部会長の小田嶋さんのところを青共の事務所のようにしており、毎日のように集まって、歌ったり、討論したりしていました。

わからない遺体の所在

終戦の年の十月十日宮城刑務所から市川正一と共に獄中であつた同志が出獄して市川正一の獄内での様子がわかりました。極度に栄養失調になっていた(歯が殆ど抜けて物を噛むことが困難になっていた)が当時の雑穀入りの固いごはんをすりつぶして食べていたことを聞かれました。市川正一は長身の方でしたがすっかりやせてしまっていたが決して苦しい様子をみせず、侵略戦争は必ず終わる、日本の人民大衆は必ず団結して民主主義に進むことを確信していたそうです。

それにしても、市川正一の遺体はいったいどこにあるのだろうか。と一生懸命探しました。刑務所長は「私の前の所長時代のことでわからない」。山口県の市川正一の実家でもわかりませんでした。

遺体発見の報に私もかけつけた

ところが一九四八年の初めに東北大学の医学部にあることがわかりました。医学部の解剖室にホルマリンづけになって、遺体に結びつけてあつた札から医学部の学生が発見し、日本共産党の県委員会に知らされたことになってわかつたのです。何ということでしょう。

遺体を引き取ることになり、早速県常任委員の方々はじめ、私も丁度事務所にいたことから一緒に大学にかけつけました。このなかには庄司幸助さんもカメラをもって同行されました。ホルマリン漬けの無残な遺体はまぎれもなく市川正一でした。

「日本共産党闘争小史」で知られたあのすぐれた理論家で、指導者の市川正一、絶対主義的天皇制の弾圧に屈せず、牢獄にあつても

たたかいた市川正一、私は悲しみと悔しさとそれこそ怒りで涙もでませんでした。遺体は庄司さんがカメラにおさめました。

日発ホールで追悼集会

そうして間もなく追悼式を当時の日本放送電(日発)のホールを借りてやりました。東北配電と合併前のことであり、レッドパージ前のことでもあり、国鉄、全通、電産の労働者はもとより学生などもふくめて数百人が参加し、盛大に催されました。追悼式は「同志は倒れぬ」を合唱し、青共が不屈のたたかいを讃える寸劇「蟻」をやり、私も参加しました。

市川正一が獄死してから早や半世紀を迎えようとしています。

「獄中からの手紙」や「日本共産党闘争小史」を読むと如何にすばらしい指導者であつたかがよくわかります。人一倍親孝行で兄弟思いであつたか。そして何よりも「人間として日本共産党員になつた時代こそ私の真の時代である」と言つた不動の確信。まさに科学的社会主義の理念に根ざした不屈

の党史そのものです。今またあの侵略戦争を賛美する動きがみられますが決して日本の圧倒的国民は許さないでしょう。

(たかはし・しんいち、「同盟」大崎支部会長、日本共産党宮城県委員会顧問)

(この文章は「不屈」宮城版一九四四年十一月号より再録)

原稿募集!

テーマ

「私と戦後50周年」

戦争を経験した方はもちろん経験しない若い世代の方々もふるって応募下さい。

戦後五十周年のいま思うこと私の経験・体験、私の決意など随想、記録、論評なんでも結構です。

字数 八百字以内

期日 年内いつでも

応募原稿は編集委員会を検討の上、随時「不屈」県版に発表します。